




令和6年度大阪府福祉基金地域福祉振興助成金地域福祉推進助成「事業評価」(事業概要)

団体名	特定非営利活動法人 ZUTTO	<div></div>	<div></div>
事業名	制度のはざまで生きる女性たちのためのセーフティ・スペース運営と包括的相談事業		
実施期間	2024年 4 月 1 日～2025年 3 月 31 日		
助成(実績)額	4,600,000 円		

事業概要	事業実績	事業を実施したことによる成果
<p>DV 被害を受けている母子、困窮している母子、居場所のない若年女性等が、セーフティ・スペースに宿泊して、安心安全な環境で心身を回復し、人生の次のステップに踏み出す力をつけることを目的として取り組みました。</p> <p>具体的には、行くところのない母子や若年女性等を対象に、避難が必要な親子や女性が一時的に滞在するための無料のセーフティ・スペースを開設し、運営しました(本助成終了後も継続中)。</p> <p>また、課題を抱えた母子、若年女性、子どものための包括的な相談支援を行い、必要な場合、行政の支援窓口、他の支援団体や弁護士につなげるなどの関わりを行っています。</p> <p>さらに、課題を抱えた母や若年女性等が、食事会やワークショップに参加し、元気を回復し、次の一步を踏み出すための機会を提供しました。</p> <p>これらの取り組みに際して、スーパーバイザーによる定期的なサポートを受けながら、関係機関との連絡調整、ケース会議等を行って課題を整理し対応方法や役割分担を確認するとともに、活動報告書を取りまとめました。</p> <div></div> <p>【活動報告書】 下記の団体ホームページに掲載しています。 https://www.npo-zutto.com/2025/04/20/annual-report/</p>	<p>相談や利用の間合せについては豊中市だけでなく、府内の他自治体(寝屋川市、門真市、東大阪市)の相談窓口からのリファーマーもあり、連携して対応にあたることができました。</p> <p>また、さまざまな支援機関によるスーパーバイズ研修を年間で 12 回行うことにより、ネットワークの構築と複合的な課題への支援の視点を獲得することができています。</p> <p>これらの取り組みを支える実施体制を助成により整え、上記の連携・協働やネットワークの構築、課題と成果の共有を図ることができました。</p> <p>事業内容としては困難な状況にある女性への人的対応による支援が中心となるため、効率的な対応が難しいところがあるものの、個別の状況に合わせて対応することが、結果としてそれぞれの人への効果的な支援になったと考えています。</p> <p>なお、相談の入口となる部分は LINE 公式アカウントのシステムを構築し、在住地や状況をまずは自動応答で確認するなどの効率化を図っています。そのうえで、個別状況の確認や面談への誘導を行いました。</p> <p>事業全体として申請時の想定を大幅を超える数の相談者数、利用者数となりました。また、拠点としている豊中市以外の自治体からのリファーマーもあり、潜在的なニーズは想定を超えて広域的に多数あることが明らかになったと言えます。</p> <p>■セーフティ・スペースの活用件数 宿泊:年間延べ 429 人日 (申請時想定 276 人日)</p> <p>■相談受付件数 年間延べ 694 人(内訳:面談 188 人・電話 187 人・LINE319 人) (申請時想定 240 人)</p> <p>■食事会参加者数 年間延べ 101 人 (申請時想定 72 人)</p>	<p>具体的なセーフティ・スペースという場をもつことで、潜在的なニーズにも対応し、量的、質的な成果をあげることができました。個別の状況を詳細に伝えることは難しいものの、一部、了解の得られた利用者からメッセージをいただき、ホームページにも記載している通り、利用者のニーズに対応し、今後の生活につながる成果が得られました。</p> <p>また、関係機関とのネットワークを構築しつつ対応することができました。</p> <div></div> <p>セーフティ・スペースの一室</p> <p>潜在的なニーズは高いことが明らかであることから、継続的な対応や拡充が必要であり、本助成終了後も別財源を獲得し、事業を継続しています。</p> <p>対象地域については、拠点としている豊中市以外の自治体からのリファーマーもあり、エリアとしても広域的に対応することとなりました。</p> <p>相談者・利用者は複合的な課題を抱える方が多いことから、就労のみならず資金援助や金銭管理なども含めたセーフティ・スペース利用後のアフターケアにも取り組んでおり、今後も拡充したいと考えています。</p> <p>事業を実施・継続することで、想定を超える利用、相談があったこと、柔軟な対応ができるセーフティ・スペースという場があることで、さまざまなニーズに対応することができることから、行政としては支援困難な制度のはざまにある人たちへの支援も、さまざまに連携して行うこととなっています。そのような状況から、近隣自治体等との連携にもつながっており、女性たちのためのセーフティ・スペースと包括的相談を行う事業の必要性・重要性がますます認知されてきたといえます。</p> <div></div> <p>食事会後のワークショップ</p>

※写真の挿入も可能です。(1～2枚程度)